環境経営レポート

2022 年度

（対象期間：令和 4 年 5 月 1 日から令和 5 年 4 月 30 日）

発行日：2023 年 6 月 30 日

®環境省
エコアクション21

認証番号　　0012688

（株）猖々谷建設

目次

1.　環境理念、環境方針 3

2.　組織の概要 4

3.　実施体制図・関係者の権限と役割 7

4.　環境経営負荷と中期経営環境目標 8

5.　環境経営活動計画 9

6.　部門別エネルギー使用量のまとめ 10

7.　2022 年度取組の結果と評価　及び　次年度の取組内容 11

8.　安全大会と緊急事態訓練 13

9.　環境関連法規制等の遵守状況の確認　及び　評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 14

10.　代表者による全体評価の見直しの結果 15

1.　環境経営理念　環境経営方針

環　境　経　営　理　念

当社は、事業活動を通して地球環境への影響を軽減させ、限りある資源を大切にし、地球環境保全と人の安全に配慮し、持続的社会の実現に向けて貢献いたします。

環　境　経　営　方　針

１・事業活動に関する環境関連法規制・協定その他の要求事項を遵守し誠実な事業活動実践する。

２・事業活動における環境汚染を予防し、資源やエネルギーの節約に取り組み環境経営力向上と組織活性化の継続的改善に努めます。

３・地域社会とのコミュニケーションを図り、奉仕活動（地域清掃）支援活動等を継続的に行い、地域環境の保全、社会の発展に寄与する。

４・当社は発生する廃棄物の再資源化を重点に全従業員へ環境保全教育を通じて、周知徹底し一人一人環境に対する意識向上に努めます。

令和　４　年　　５月　１日

株式会社　猖々谷建設

代表取締役　猖々谷勝文

2　組織の概要

1．事業所名及び代表者氏名
　株式会社猖々谷建設　代表取締役　猖々谷 勝文

2．所在地　(認証範囲における事業所名とその住所)
　本社：〒042-0952 北海道函館市高松町 575 番地 270
　中間処理施設 E・R・C：〒041-0834 北海道函館市東山町 134 番 2
　札幌営業所：〒061－3218　北海道石狩市花畔 360 番 47
　資材置場：〒042-0951 北海道函館市瀬戸川町１２４番地９８
　高松町駐車場・給油所：〒42-0952 函館市高松町 575 番地 7

3．環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
　専務取締役　猖々谷　美奈子
　本社　北海道函館市高松町 575 番地 270　TEL（0138）57-5043

4．事業内容の概要(認証範囲における業務範囲)
　解体工事業、土木建築の施工及び請負業、一般貨物自動車運送業、産業廃棄物収集運搬業、中間処理業、自動車整備業事業

5．事業の規模(売上高、従業員数、事業所の延べ床面積等、産業廃棄物の収集運搬・処分量)

活動規模	単位	令和 2 年	令和3年	令和4年度
収集運搬量	t	16,881.46	20,942.14	29,191.96
受託処理量	t	32,962.34	33,464.34	30,078.50
売上高	百万円	1,250	1,721	1,472
従業員	人	30	40	40
床面積	m^2	162.7	162.7	162.7
工事等の件数	件	185	221	181
倉庫床面積	m^2	869.94	869.94	869.94
資機材置場面積	m^2	39.08	39.08	39.08
高松町駐車場･給油所面積	㎡	5280	5280	5280

6．情報公開項目
　①創立年月日：猖々谷重機　昭和 54 年 4 月 1 日創立
　　会社設立年月日：有限会社猖々谷重機　昭和 62 年 4 月 6 日設立
　　組織変更年月日：株式会社猖々谷建設　平成 5 年 5 月 21 日組織変更し設立
　②資本金：3,000 万円

7.　許可の内容：建設業許可番号、業種(特定建設業)

北海道知事許可（特―2）渡第 3092 号
土木工事業、とび、土工工事業、水道施設工事業
解体工事業、建築工事業、大工工事業

北海道運輸局許可　一般運送業　北自貨第 1169 号
産業廃棄処分業許可　函館市　第 5220025946 号
許可年月日令和元年 7 月 28 日　許可の有効年月日　令和 6 年 7 月 27 日
事業範囲　破砕（木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（これらのもののうちガラスくずを除く。）がれき類（コンクリート塊、アスファルト塊を含む））
産業廃棄物収集運搬許可　北海道　第 0100025946 号
許可の年月日　令和 2 年 5 月 17 日　許可の有効年月日　令和 7 年 5 月 16 日
事業範囲　燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類。以上、石綿含有産業廃棄物であるもの、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む。積替保管なし
自動車分解整備事業認証　認証番号　第 2-652 号

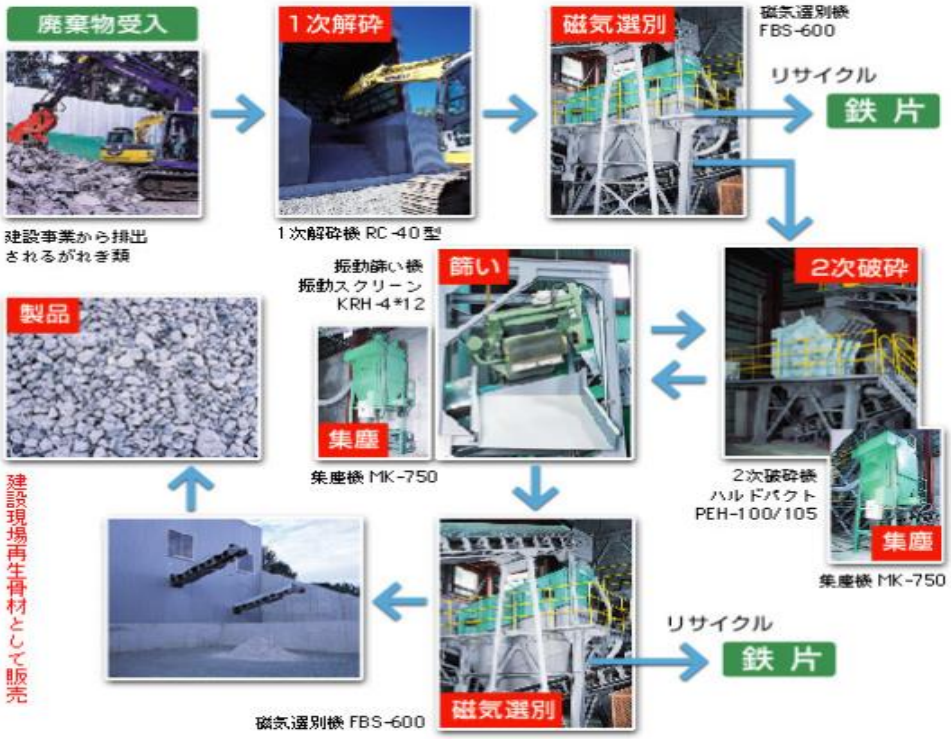
8.　施設の状況

収集運搬業：運搬車両の種類と台数
11t ダンプ 10 台　8 t ダンプ 1 台　4 t ダンプ 4 台　2t ダンプ 2 台
2t ユニック 1 台　11 t セルフ 1 台　トレーラ・セミトレーラ各 1 台
8 t セルフ 1 台

処　分　業：処理施設の種類　産業廃棄物中間処理施設
処理する産業廃棄物の種類　木くず・廃アスファルト・廃コンクリート
処理能力（規模）がれき類　640 t /日（8 時間）　80 t /　時間
木くず　600 t /日（8 時間）　75 t /　時間

がれき類（コンクリート・アスファルト）処理工程

がれき類は破片を除去、建設現場再生用骨材製品にリサイクルをして販売しております。

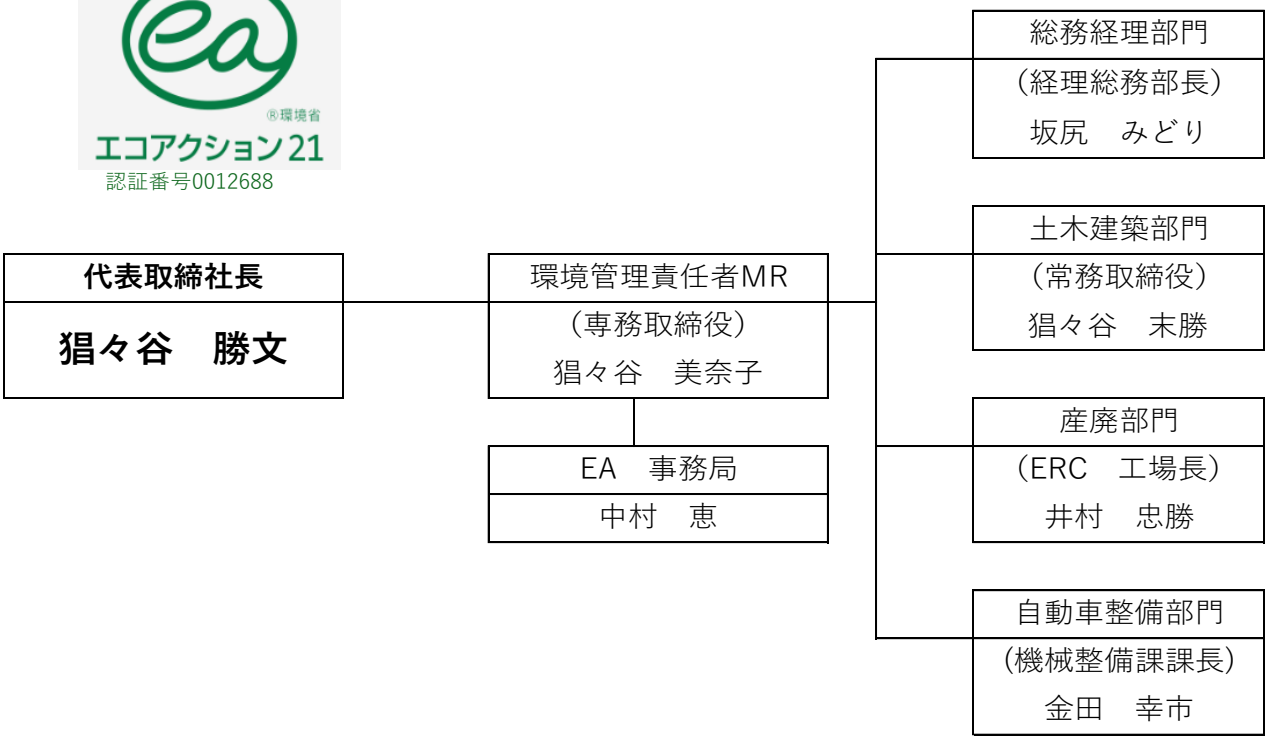


木くず処理工程

木くずはチップ化して販売しております。

3、　実施体制図

エコアクション21
認証番号0012688



関係者の権限と役割

構成要素	役割、責任及び権限
代表者	≪社長≫会社を代表し、会社業務の全ての執行を統括する ① EA21環境マネジメントシステムの実施及び管理に不可欠な資源の提供、　資源には、人的資源及び専門的な技能、技術並びに資金を含む ② 環境方針の作成 ③ 環境管理責任者の任命 ④ 全体の評価と見直しの実施
環境管理責任者（MR）	≪専務取締役≫ ① EA21に従った環境マネジメントシステムの要求事項の確立、実施、維持 ② 代表者（社長）への実績報告を含む見直しの為の報告 ③ EA21環境マネジメントシステムの運用実施 ④ 環境活動レポートの作成責任
EA事務局	≪総務部長、ERC事務担当≫ ① 環境管理責任者のサポート ② 環境管理責任者の指示による文書・記録の作成 ③ 文書・記録の管理
各担当責任者	① EA21　環境マネジメントシステムの運営実施 ② 環境管理責任者の指示による文書・記録の作成

環境経営負荷（過去３年分実績）

項目		単位	令和２年度 ２０２０年度実績	令和３年度 ２０２1年度実績	令和４年度 ２０２2年度実績	判定
売上高		百万円	1,250	1,721	1,472	―
二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	1,751,015	1,635,279	1,641,162	―
全体	電力1　北電	KW h /年	74,955	69,271	64,645	―
	電力2　どさんこパワー	KW h /年	36,954	39,027	34,681	―
	ガソリン使用量	ℓ /年	16,078	15,154	17,935	―
	軽油使用量	ℓ /年	459,039	387,377	405,214	―
	灯油使用量	ℓ /年	109,904	136,757	126,004	―
	A重油	ℓ /年	70,000	74,000	68,000	―
	液化石油ガス（LPG）	kg/年	85	150	518	―
環境活動計画	本社電気使用量	KW h /年	12,281	11,568	11,277	○
	ダンプ燃費	km/ℓ	2.3	2.5	2.63	○
	ERC 最大需要電力	KW/年	83	84	85	×
	ERC チップエネルギー使用量	ℓ /㎥	0.85	0.79	0.70	○
	ERC再生材エネルギー使用量	KW h /㎥	3.16	2.56	2.57	×
	産業廃棄物削減	木屑リサイクル100%の継続	100%	100%	100%	○
産業廃棄物の削減	産業廃棄物総排出量	t/年	11,566	16,091	17,365	― ―
	特別管理産業廃棄物総排出量	t/年	5	14	112	― ―
	産業廃棄物再資源化率	%/年	99.5	99.7	99.8	― ―
	一般廃棄物	kg/年	4,614	3,584	4,614	―

中期環境経営目標（２０２２年から２０２４年）

項　　目		単位	単年度目標 基準値 2021年度	中期環境経営目標 目標 2022年度	目標 2023年度	目標 2024年度
二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	対基準値比 1,635,279	1%削減 1618926	2%削減 1,602,573	3%削減 1,586,221
環境活動計画	本社電気使用量	%	対基準値比	1%削減	2%削減	3%削減
		KW h /年	11,568	11,452	11,337	11,221
	ダンプ燃費	%	対基準値比	1%向上	2%向上	3%向上
		km/ℓ	2.5	2.52	2.55	2.57
	ERC 最大需要電力	%	対基準値比	1%削減	2%削減	3%削減
		KW/年	84	83	82	81
	ERC チップエネルギー使用量	%	対基準値比	1%削減	2%削減	3%削減
		ℓ /㎥	0.79	0.78	0.77	0.76
	ERC再生材エネルギー使用量	%	対基準値比	1%削減	2%削減	3%削減
		KW h /㎥	2.56	2.53	2.5	2.48
	産業廃棄物削減	木屑リサイクル率 100%の継続（土木産廃）	100%	100%	100%	100%
	化学物質の適正管理	整備部門	PRTR法対象物質の少ない製品をメーカーに確認			
	地域社会貢献活動	総務部	地域社会とコミュニケーションを図り奉仕活動（地域清掃）及び支援活動等の継続			

基準値については20２１年実績を基準とした

購入電力のCO2排出量は2021年　どさんこパワー0.54kg-CO2/kWh

北海道電力　0.55kg-CO2/ｋWhを使用しています

5.　R4 年度　環境活動計画

項目	環境経営目標	活動内容	関連SDGs	責任者
二酸化炭素 排出量の削減	本社　電気の使用量　前年比１％削減 （11,452KW h /年）	①照明、パソコン等のこまめな管理 ②エアコン温度の管理（夏26°C設定） ③複写機・パソコンは省エネモード		*総務部* *猖々谷*
	ダンプ燃費2.52km/ℓ　以上 （ダンプ部門）	①点検整備、空気圧管理 ②アイドリングストップ ③エンジンブレーキの使用 ④急加速を行わない ⑤ドライバーの燃費管理 ⑥高段速ギアの使用、エンジンブレーキの活用 ⑦渋滞の回避、過積載をしない （詳細は手順書を参照）		*土木部* *猖々谷*
	最大需要電力の削減　83KW/年 木屑チップ　エネルギー使用量の管理　0.78ℓ/㎥ 再生材　エネルギ使用量の管理　2.53KW h /㎥ （産廃部門）	①始業点検、終業点検の実施 ②管理手順書の順守 ③時間帯、季節、現場受入量など環境に 合わせ無理のない省エネを行う。 ④デマンドコントローラーの活用		ERC　井村
廃棄物の削減	木屑リサイクル100％の継続 （土木部門、産廃部門）	①分別の徹底 ②解体時の管理手順順守		*土木部* *猖々谷* *ERC　井村*
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象物質の少ない製品を製造メーカーに 確認してゆく （自動車整備部門）	①メーカーに確認 ②厚生労働省ホームページにて情報収集 ③新たな化学物質規制に関するチェックリスト を参考		整備　金田
その他	地球環境の改善となる活動への参加 （全社）	①清掃美化運動などへ参加 ②地域社会とのコミュニケーション		*総務部* *猖々谷*

水資源削減－自動車整備工場の洗車使用及びERCの粉塵対策が主な使用であり削減は困難で
目標設定は実施しないが無駄な使用はしないように努める。

化石燃料使用量　気温変動や物件数の要因が大きい為　目標設定は実施しないが
無駄に使用しないように努める

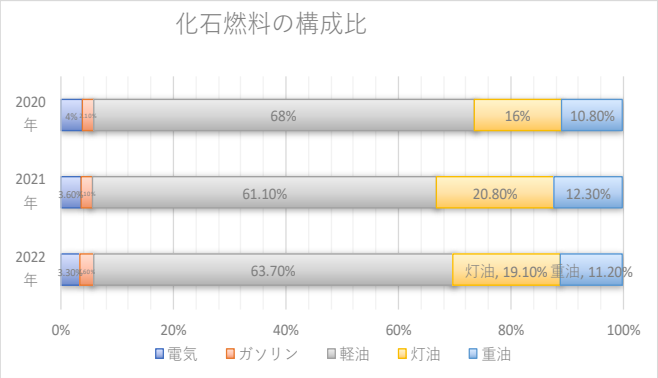
中間処理施設（ERC）の電気使用量　→　受入の産業廃棄物の質・量により変動が大きいので目標設定は実施しないが
無駄にしないように努める。

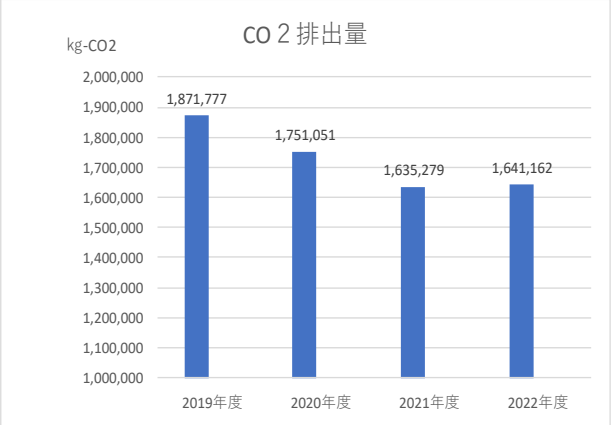
6.　2022年5月 ～ 2023年 部門別エネルギー使用量のまとめ

部門別取りまとめ		本社事務所			休憩所　洗車場　整備工場		
該当項目		量	CO2排出量（kg-CO2）	割合	量	CO2排出量（kg-CO2）	割合
エネルギー使用量	電力1	kWh			kWh		
	電力2（排出係数0.571kg-CO2/kWh）	11,277.00 kWh	6,439.17	13.5%	18,095.00 kWh	10,332.25	37.7%
	ガソリン	12,660.94 L	29,373.38	61.6%	L		
	軽油	2,373.39 L	6,123.35	12.8%	1,069.58 L	2,759.52	10.1%
	灯油	2,300.00 L	5,727.00	12.0%	5,752.00 L	14,322.48	52.2%
	A重油	L			L		
	液化石油ガス（LPG）	26.08 kg	78.24	0.1%	kg		
	合計（エネルギー）		47,741.14	100.0%	合計（エネルギー）	27,414.25	100.0%
		土木部門			ダンプ部門		
エネルギー使用量	電力1（排出係数0.537kg-CO2/kWh）	1,996.00 kWh	1,071.85	0.2%	kWh		
	電力2（排出係数0.571kg-CO2/kWh）	5,309.00 kWh	3,031.44	0.5%	kWh		
	ガソリン	5,254.02 L	12,189.33	2.1%	L		
	軽油	125,528.30 L	323,863.01	55.4%	248,571.70 L	641,314.99	100.0%
	灯油	23,600.56 L	58,765.39	10.1%	L		
	A重油	68,000.00 L	184,280.00	31.5%	L		
	液化石油ガス（LPG）	370.53 kg	1,111.59	0.2%	kg		
	合計（エネルギー）		584,312.61	100.0%	合計（エネルギー）	641,314.99	100.0%
		エコリサイクルセンター			全　体		
エネルギー使用量	電力1（排出係数0.537kg-CO2/kWh）	62,649.00 kWh	33,642.51	9.9%	64,645.00 kWh	34,714.37	2.1%
	電力2	kWh			34,681.00 kWh	19,802.85	1.2%
	ガソリン	20.00 L	46.40	0.0%	17,934.96 L	41,609.11	2.6%
	軽油	27,671.26 L	71,391.85	21.0%	405,214.23 L	1,045,452.71	63.7%
	灯油	94,351.00 L	234,933.99	69.1%	126,003.56 L	313,748.86	19.1%
	A重油	L			68,000 L	184,280.00	11.2%
	液化石油ガス（LPG）	121.51 kg	364.53	0.1%	518.12 kg	1,554.36	0.1%
	合計（エネルギー）		340,379.28	100.0%	合計（エネルギー）	**1,641,162**	100.0%

kg-CO2

電力1　北海道電力
電力2　どさんこパワー





７．　２０２２年取組の結果及び評価と次年度の取組内容

（1）二酸化炭素の排出量の削減

部門	取組活動	実施状況	評価
本社	不必要な照明の消灯	○	給湯室や昼休みの時間帯など、消灯は実施できた。 時短、効率的な業務の改善を行い不要電力の見直しを行った。
	エアコンの設定温度を決め省エネに取り組む	○	エアコンの温度設定が徹底されている。必要のない時期はＯＦＦ徹底 窓の開閉で温度調整していた。
	複合機、パソコンは省エネモード	○	複合機は節電モード パソコン不使用時はスリープ状態にした。
	次年度の取組内容	目標11,568KWH　年間実質TOTALは11,277KHW　　前年比　97.5%であった 節電に心掛けて　次年度も削減に取り組んで行く。	
ダンプ部門	点検整備、空気圧の管理、アイドリングストップ	○	会社全体で　運輸安全マネジメント計画を実施し ドライバー各自が　意識して行っている。
	エンジンブレーキの使用　急加速を行わない	○	
	ドライバーの燃費管理、高弾速ギアの使用の活用	○	
	渋滞の回避、過積載をしない	○	
	次年度の取組内容	目標燃費　2.52km/L維持であったが　実績　2.63km/L　（前年比105%↑） 次年度もエコドライブを実施し燃費向上　エネルギー使用量の削減努力をして行く。	

エコリサイクルセンター	始業点検、修行点検の実施	○	①最大デマンド値（最大需要電力）→１２月　85KWで今年度は終了となる ②木屑チップ　１㎥あたりのエネルギー使用量　0.78→0.70L/㎥ ③再生材　１㎥あたりのエネルギー使用量　2.53→2.57kwh/㎥ 破砕処理のほか　点検　修繕作業等に時間と経費が掛かった。 電気料金も高騰が続いてる為、無駄なく効率の良い作業が必要である。 デマンドコントローラーを利用しているが、最大デマント値がアップした。　今後一層の削減努力が　必要である。
	管理手順書の順守	○	
	時間帯、季節、現場受入量など環境に合わせた 無理のない効率の良い作業、省エネを行う	×	
	次年度の取組内容	①②③の項目については、次年度も削減努力をしていく デマンドコントローラーを意識し　契約デマンド値を下げることが課題となる 再生材の製造は　冬季における破砕機の運転方法の見直しが必要です。	

（2）産業廃棄物の削減

土木部門・エコリサイクルセンター　　（木屑リサイクル100%の継続）

分別の徹底、解体時の手順順守	○	手順書に従い環境に配慮した作業が行われている 現場の分別作業、破砕時の前処理も徹底されている
次年度の取組内容	分別によって　最終処分量を削減し　木屑のリサイクル100%継続を維持する リサイクルチップも順調に出荷されていた。	

（3）化学物質使用量の削減

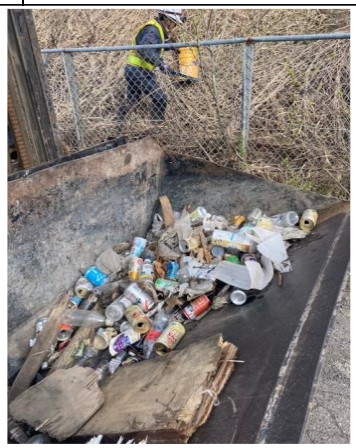
自動車整備部門　（PRTR法対象物質の少ない製品を製造メーカーに確認）

化学物質の適正な管理 PRTR法対象物質の少ない製品を製造メーカーに 確認していく	○	SDS制度に該当する化学物質は、人の健康や環境への悪影響を もたらさないように適正な管理に努めていた
次年度の取組内容	新たな化学物質規制の制度が導入された。情報収集し次年度も安全な管理を行う	

（4）その他

全社　（地球環境の改善となる活動への参加）

清掃美化運動などへの参加	○	地域社会との連携を図り、環境保全活動を積極的に実施し、地域環境の美化に努めました。　（年２回　地域清掃活動の継続）
次年度の取組内容	社会貢献につながるよう継続的に実施する。	



地域社会とコミュニケーション

地域清掃などの奉仕活動や、地域への寄与・協賛活動を通じて
地域環境の保全と持続可能な地域社会の現実に貢献してまいります。

主な寄与　協賛活動と清掃活動

令和４年	６月	環境フェスティバル実行委員会 サンパイイレブンジュニアサッカー大会 函館港まつり実行委員会 函館の街をきれいにする市民運動協議会
	７月	宿の日　函館湯川温泉花火大会実行委員会 遺愛女子高等学校吹奏楽局（吹奏楽定期演奏会）
	９月	北海道新聞社（花火大会）
	10月	遺愛女子高等学校吹奏楽局 函館市　ボランティア清掃参加
	１１月	函館クリスマスファンタジー実行委員会 五稜星の夢実行委員会 世界自閉症啓発デー函館地域実行委員会
令和５年	１月	はこだて冬フェステバル実行委員会 市民創作「函館野外劇」
	４月	遺愛女子高等学校吹奏楽局 南かやべひろめ舟祭り実行委員会 函館市「クリーングリーン作戦」清掃活動参加

地域社会とコミュニケーション

エコリサイクルセンター　コンクリート堆積場にて
函館市消防本部　都市型捜索救助訓練実施

令和５年度　安全大会　安全祈願祭　緊急事態訓練

2023/04/29（土）

令和５年度　安全大会　安全祈願祭を開催しました。
労働災害の防止策、運転マナーの基本、油の漏洩緊急事態テストでは実際にスピルキットを使用して訓練しました。

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連の法規制の違反はありませんでした。
また、利害関係からの訴訟、関係当局からの指摘はありませんでした。

主な法規制遵守確認記録	
作成日付: 2022年度 作成者:坂尻みどり 令和5年6月15日	
法律等の名称	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律、令、規則	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行細則(北海道)	○
産業廃棄物の保管施設のガイドライン(北海道)	○
産業廃棄物処理施設設置および維持管理に関する協定書(函館市、東山町会)	○
函館市廃棄物処理施設設置等指導要綱	○
函館市廃棄物の処理および清掃に関する条例	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律	○
大気汚染防止法、令、規則	○
石綿障害予防規則	○
北海道公害防止条例、規則	○
一般高圧ガス保安規則	○
計量法	○
電気事業法、電気事業法施行規則	○
毒物及び劇物取締法	○
特定化学物質の環境への排出量の把握、及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法) 労働安全衛生法	○
浄化槽法、浄化槽法施行規則	○
消防法、危険物の規制に関する政令	○
函館市火災予防条例、規則	○
道路運送車両の保安基準、道路交通法	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、施行令、施行規則	○
建設工事に関係する大気汚染防止法、令、規則	○
建設工事に関係するポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別処置法	○
建設工事に関係する騒音規制法、令、規則	○
建設工事に関係する振動規制法、令、規則	○
建設工事に関係する北海道公害防止条例、規則	○
土木工事共通仕様書関連	○
土木工事共通仕様書関連技術指針	○
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律(オフロード法)、施行令 建設業に係る特定特殊自動車排出ガスの排出の抑制を図るための指針	○
建設副産物適正処理推進要綱(国土交通省事務次官通達)	○
再生資源の利用の促進について(建設大臣官房技術審議官)	○
河川法施工令、排水基準を定める省令	―
水質汚濁防止法(タンク漏洩事故対応)	―
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律(油漏洩対応)	―
建設工事公衆災害防止対策要綱 (建築 土木)	○
景観法	○
家電リサイクル法	○

遵守できていない場合は問題として是正処置を行う。「是正予防処置計画・報告書」に従う

9.　代表者による全体評価と見直しの結果

環境経営目標・環境経営計画の達成状況

①　電気使用量の削減　　引き続き会社全体で削減に取り組んで行く

②化石燃料使用量の削減　　昨年に引き続き全ての価格が高騰しているため
資源やエネルギーの節約に努める

③CO 2 排出量削減　　遠方の現場が多かったため総量では目標達成できなかったが、
各部門で取組を継続し、CO2削減に取り組んでいく。

④水使用量の削減　　自動車整備工場の洗車使用及び　ERC・土木部現場の粉塵対策が主な使用で
あり削減は困難で目標設定は実施しないが無駄な使用はしないよう努める。

⑤産業廃棄物排出量の削減　　徹底的な分別を行い　引続き適正な処理に努める
ERCは中間処理施設の特性を生かし　再資源化率を保つこと

⑥社会貢献活動の実施　　ボランティア活動の実施を継続して行った。　引き続き取り組んでいく。
地域社会とのコミュニケーションを大切にし社会の発展に尽力する。

⑦化学物質使用量の削減　　代替物質を使用することで、環境に悪影響を与える化学物質の使用量を減らす
適正な管理を行うことで、環境に与える悪影響を最小限に抑えるように努める

環境経営方針

全従業員が環境に対する意識向上に努め　SDGsを意識した環境活動を実施していく。

環境経営目標・環境経営計画・実施体制

目標に向かって取り組んでいるが　未達成部分もある。是正予防措置報告書を活用し
目標達成に向かって社員一同で取り組んでいきたい。
実施体制の変更はない。

環境関連法規等の遵守状況

関連法規については、遵守できている。

外部からの環境に関する苦情や要望

外部からの環境に関する苦情や要望はありませんでした。

総合評価及び見直しの指示

環境経営方針に基づき環境汚染を防止し　組織活性化の継続的改善に努めた。
各部門においても環境活動の取組に対する意識向上が見られる。
次年度もさらなる目標に向かって社員一同環境活動に取り組み
顧客満足度を高める。